

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770301794	
法人名	MCP株式会社	
事業所名	グループホームつどい「八山田家」	
所在地	福島県郡山市八山田西四丁目184番地	
自己評価作成日	2026/3/15	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://mcp-net.jp/about.html">http://mcp-net.jp/about.html</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街に立地されており、近くに神社や学校があることから散歩や地域交流を通して多くの方と顔馴染みになっている。町内会に加入し清掃活動やお祭りなどに参加することで、認知症の方への理解を深めて頂けるような働きかけをしている。今年度は、近隣小学校の課外授業でのホーム内見学や中学校からは職場体験、保育園児の慰問と多くの若い方々との交流があったり、近隣の新たな保育園との交流も出来きて今後のさらなるホームの活性化に繋がった。大きな規制もなくご面会を受け入れており、利用者様とご面会者様の絆が強くなり、笑顔の見る機会が多かった。幅広い年代層のスタッフが在籍していることで色々なアイデアを出し合うことでレクリエーション活動等に反映されている。利用者様にとって居心地の良い、安心安全な生活できる場としてホーム運営を継続していきたい。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)
---------------------------------

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念に沿った介護サービスの提供ができるよう努めている。職員は行動倫理である「つどい10の約束」を意識し実践している。	「つどい10の約束」を掲示していつでも確認できるようにしている。全職員が共有して実践出来るように意識している。入職時には、オリエンテーションにて読み合わせを行い、実践出来るように指導。	・今後も継続的に実践していてもらいたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	町内会に加入しており、清掃活動や地区のお祭りを通じて交流を深めている。散歩時に挨拶したり、近所の方に野菜を頂いたり交流をしている。	町内会に加入したことで、より一層地域住民とふれあえる機会が増えている。地区の清掃活動には参加出来るように勤務体制を整えている。	・地域交流はとても重要なので、今後も積極的に交流を図っていてもらいたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月、ホームでの活動を新聞にまとめて「つどい新聞」を発行、発信している。近隣の方からの介護相談には率先して応じ、他事業所への問合せなどを支援している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	今年度は、対面で開催することが出来た。	ホーム内での困りごとをご相談して多くの貴重なご意見やアドバイスを頂けた。	・運営推進会議の場にはいろいろな意見が出る場であるので、そういった意見を参考にしながら寄り添い運営につなげていてもらいたい。 ・問題のフィードバックをしながら継続的会議の実施が重要と思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点は即時、相談している。市の介護サービス相談員を受け入れ、ご利用者の思いの汲み取りに尽力して頂いている。月2回の定期訪問により利用者様との馴染みの関係になりつつある。	生活保護受給者が入居されているので、定期的に状態を報告し、情報の共有を図っている。相談事があれば直ぐに生活支援課の地区担当の方へご連絡している。	・生活保護の方は行き先が限られてしまうので、今後も受け入れられる範囲で受け入れていてもらいたい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一回のペースで社内研修を行い、勉強する機会を設けている。また、フロアミーティングにおいても事例を上げて共通理解を深めている。	社外の研修に参加した職員は、フロアミーティングの際に他職員に報告して共有している。ホーム内でも3か月に1回研修を行い、職員への意識づけを図っている。	・今後研修を継続し、身体拘束の理解を深めていてもらいたい。
7	福-1	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	繰り返し研修を行い、虐待防止に努めている。社外の虐待防止の研修に積極的に参加させている。職員一人ひとりに意識付け出来るようにしていきたい。	社外の研修に参加した職員は、フロアミーティングの際に他職員に報告して共有している。ホーム内でも3か月に1回研修を行い、職員への意識づけを図っている。	・今後も研修を継続し、虐待防止につなげていてもらいたい。また、虐待は早期対応が重要なので、個々で気付ける力をつけていてもらいたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に対する職員の理解は十分とは言えない。利用者様の状況によって、市や地域包括支援センター等の担当者へ相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書にて説明をし、不明点の聞き取りを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に口頭での説明はもちろん、ホーム玄関に相談箱の設置や苦情受付について明示している。また、面会等の来所時に不明点等の聞き取りを行っている。	家族様のご意見を反映出来るようにしている。ご意見やご要望がないかを見逃さないように意識している。	・利用者や家族の意見を反映させたりすることは重要なことなので、今後も利用者や家族の意見に耳を傾けていてもらいたい。 ・意見があった場合は開示しながら対応改善したいと思っています。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。	定期的に個人面談を行い、その際に出た意見を反映するようにしている。また、フロアミーティングで意見を出しやすいような雰囲気作りをしている。職員が生き生きと働けるような職場を作れるよう努力している。	朝礼や各ミーティングにおいて意見を多く出してもらえるような雰囲気作りを中心に掛けている。職員の個人面談を年2回必ず行い、働きやすい職場環境作りに努めている。	・働きやすい職場環境は重要なので、今後も働きやすい職場環境作りに努めていてもらいたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	コミュニケーションを大切にし、意見は貴重なものとしている。業務内容や勤務形態を見直す機会を設け、向上心を持って働けるようにしている。		
13	福-2	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来るだけ研修に参加できるようにしている。正職員とパート職員の隔たりを作らず、その職員にとって必要と思われる研修に参加させている。	全職員対象に社内研修を行っている。どのような研修を行いたいかわかり職員からアンケートを取り参考にしている。	・職員のスキルアップは重要なので、今後も取り組んでいてもらいたい。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修などに出来るだけ参加できるような体制を整えている。系列事業所との合同研修会で、意見交換を行うことでサービス向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを図りながら関係の構築に努めている。家族に生活歴を聞き取り、関係性を深められるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困りごと等は解決の糸口を一緒に見つけて良好な関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	定期的に電話等で状態報告を行い、より良い関係作りに努めている。介護の専門用語は出来るだけ使わず、分かりやすい言葉を選択して話すようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を確認、尊重しながら出来ることはご自身にお願いして張りのある生活が出来るように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の要望を出来るだけ反映出来るように定期的な連絡や、毎月書面でもお知らせしている。ご状態の確認をして頂く為にもご面会をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の写真をご持参して頂くことで昔話をしたり、働いていた頃のお仕事内容に近いお手伝いをお願いをしている。馴染みの床屋さんなどに出向いて以前からの関係が途切れないように働きかけている。	馴染みの人との関係が継続できるようにご家族と連携を取りながら、外出の機会を積極的に作るようにしている。	・利用者にとって以前のつながりは重要なので、今後も関係が継続していけるよう努めてもらいたい。 ・利用者の方も楽しみにさせていると思います。幅広い認知活用に期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように会話の橋渡しをしたり、トラブルになりそうな時は自然に止められるようにご利用者の動向を気に掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後でも気軽に訪問して頂けるように働きかけている。物品を提供して下さることがあり助かっている。また、別家族様の介護相談を受けることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っていく取組を心がけている。	普段の訴えや行動から思いを汲み取れるよう努めている。入浴や散歩時にご本人様の思いや希望をしっかりと把握できるように努めている。	出来るだけご希望に添えるように努めている。その方の主訴は何かを探り、共有している。職員が馴染みの関係になれるようにしている。	・人それぞれで思いがあるので、思いを汲み取りながら支援につなげていってもらいたい。 ・各フロアでの利用者様同志コミュニケーションアップのリハビリ等工夫されて実施下さい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から生活歴の聞き取りを行い、前任のケアマネージャーからも出来るだけ情報収集出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアカンファレンス等で現状を把握する。報告書を作成、周知することで職員間での情報共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族と職員で情報を共有して様々な意見を取り入れて介護計画に反映している。	日常の中でモニタリングを行い何気ない会話からの発見もある。フロアミーティングでの情報を介護計画に取り入れるようにしている。	・いろんな気付きがあると思うので、フロアミーティングを行い、情報共有し、介護計画に反映させていってもらいたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子や支援等を個々の生活記録、業務日誌に記載。記録と共に朝礼や月1回のフロアミーティングにて実践結果等を話し合い、介護計画に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の日々の変化に対応している。ご家族、かかりつけ医と相談して訪問マッサージ等を利用することがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症の影響で現在はボランティアを受け入れていない。ドライブでお花見や紅葉狩りなどに外出した。お祭り時には、ガラス戸越しにお神輿を見て交流を深め楽しいひと時を過ごした。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族のご要望により受診している。協力医療機関もあるが、馴染みの関係や各々の状態に合わせて医療機関の受診対応をしている。協力医療機関の往診は月2回あり、ご希望によりご家族にご同席して頂いている。	ご希望に添って受診をしている。協力医療機関と連携を取り、必要時には専門科への紹介をお願いしている。協力医療機関への報告、連絡、相談は徹底するように周知している。	・今後も医療機関と連携し、利用者の体調管理に努めていってほしい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護スタッフ出勤時にご利用者の体調の変化を伝え日常の健康管理している。また、看護ノートを共有して気づきを往診時に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医に診療情報提供書を作成して頂き、担当医へお渡ししている。相談室との連絡を密に取り状態を把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居の際にご家族へ重度化の指針を書面にて提示し、説明をしている。ご希望がある場合は、往診時にご同席や往診医からの病状説明を受けて頂けるよう配慮している。	日頃から状態報告をご家族に行い、状態に変化があった際はご家族と面談している。	・終末期は、本人や家族とっても重要なので、今後も本人、家族に寄り添った支援を行ってほしい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成している。各フロアに設置していつでも手に取れるようにしている。フロアミーティングの際に定期的に確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。町内会へ加入しているので地域との協力体制の構築をしていきたい。	町内会には加入しているが、役員改正などがあり地域との連携まではしっかりと出来ていない。	・災害時は、地域とのつながりは重要なので、今後も町内会との連携を密に取ってほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の拘りやプライバシーの大切に損なわないように対応している。	大切にしている事や物、拘りは何かを職員で共有している。ご利用者の主観からの大切な物は何かを考えるようにしている。	・今後もプライバシーに配慮した支援をしていてもらいたい。 ・共有はとても大切だと思います。信頼関係につながります。がんばって下さい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	うまく表現できない場合は、簡単に答えられるような問い掛けを行ったり、ジェスチャー等での表現で思いを汲み取り自己決定が出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体的なプログラムはあるものの食事時間をずらしたり、その日の気分などに合わせながら柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度、訪問理美容を利用している。カットやカラーなどおしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。	月に一度、特別食の日を設けたり、家庭菜園の野菜を使って一緒に調理している。調理できない方も傍で作業を見て楽しんでいる。	・楽しく食事が摂れるような雰囲気づくりに努めている。食席については利用者様の関係性を見極め、利用者様の意見も考慮してきめている。	・食事は楽しみでもあるので、楽しみのある食事を提供していてもらいたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門業者に依頼しているのでバランスの良い献立になっている。食事量、水分量のチェックを行い、過不足のないように心掛けている。また、嚥下状態に合わせた食事形態にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けして出来る方はご自身で、出来ない方には支援をしている。何かあった時などは訪問診療を受けるような体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握している。各々のパターンやリズムを見極めて声掛けやトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表を確認してトイレの声掛けを行っている。排泄パターンを共有できるようにミーティングで話し合っている。	・排泄は、健康管理や保清につながってくるので、今後も自立に向けた支援を継続してもらいたい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を調整して頂き、排便のコントロールをしている。体操や時には腹部マッサージを行い、排便を促している。一日の水分摂取量を記録して水分不足にならないよう声掛けや介助をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日に入浴出来るのか、出来ないのかご希望の聞き取りをしている。季節に合わせて菖蒲湯や柚子湯にして楽しんでいる。	出来るだけご希望通りに入浴が出来るようにしている。但し、偏っての入浴にならないように気を配っている。	・今後も季節に合わせた入浴方法を検討していってもらいたい。 ・入浴を億劫の方もおりますが、たのしみになされている方が多いと思います。希望も変化するかもしれません。聞き取りなど定期的に聞いて叶う様よろしく調整下さい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は安らぎの空間との意識を持ち安全の確認はするが、その人に合わせた休息をする空間として認識するよう心掛けている。不眠傾向の方についてはかかりつけ医へ報告、相談している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬して頂く際に何の薬かを説明して拒否がないように声掛けを工夫している。薬の説明書を個人カルテに綴じ、いつでも確認できるようにしている。薬の変更時にはいつからの変更なのかを業務日誌で申し送りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	将棋やカラオケ、DVD鑑賞など一人ひとりが楽しんで頂けるよう努力している。また、その人の得意分野を見つけ張り合いのある生活が出来るようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対策として人込みを避けるようにしていたが、近隣を散歩したり自動販売機に出向き買い物を楽しんでいる。	近隣の神社まで散歩に行ったり、庭の花壇で外気浴を行っている。	・外に出るだけでも気分転換になるので、今後も出来る範囲で連れて行ってもらう。 ・外出は大きな気分転換ですね。継続活動お願いします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いの管理は事業所で行っている。自動販売機での買い物くらいで、スーパーなどへの買い物はしていない。希望があれば支援したい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご利用者、ご家族のご希望により、手紙や携帯電話でやり取りされる場合もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	感染対策の一環として換気や消毒を定期的に行い、室温調整を細目に行っている。ご利用者と一緒に壁面装飾を作成して季節を感じられるような雰囲気作りをしている。	毎日、定期的な換気、消毒を行い感染予防に努めている。明るい雰囲気になるように掲示物や装飾を考えている。	・今後も居心地のよい空間づくりに取り組んでいてもらいたい。 ・明るく清潔な共用空間を作られています。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性が良かったり、仲の良い方同志を同じテーブルにするようにしている。いつでも寛げるようにソファの配置をその時々状態に合わせて設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	テレビや筆筒、仏壇、家族写真などご入居前に使用していた馴染みのものを置き、安心して生活出来るようにしている。居心地が良くなるようにご本人、ご家族と相談しながらお部屋作りをしている。	安心して過ごせるように室温調整を行い環境を整えている。馴染みの物を持ち込んで頂くことで落ち着いて生活が出来るように工夫している。またプライバシーを侵害しないようにしている。	・居室は本人の一番の生活スペースとなるため、出来る限り本人の意向に沿った空間づくりに努めてもらいたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	同線に邪魔なものを置かず自由に動いてもらえるようにしている。手すりが備え付けてあり、トイレやお風呂など分かりやすく表示している。		